

第28回学術シンポジウム「グローバル文化史の試み」総括シンポジウム

実施報告書

コロナ禍の影響を直接に受けた共同研究であったが、総括シンポジウムを無事開催することができた。「学術シンポジウム」という枠組みの歴史、その枠組みによるこのたびの共同研究「グローバル文化史の試み」の意義を確認しつつ、2日間のプログラムを行った。

【1日目（12月18日）「上演空間と舞台テクノロジー 比較演劇史の一視点」】

2020年3月に行う予定でありながら、コロナ禍により中止となったシンポジウムを開催したものである。当時、発表者からいただいた原稿は英文論集に発展し、2022年1月に出版されることとなった。このプログラムは出版予告の機会ともなった。

【2日目（12月19日）「さまざまな視点」】

3つのパートに分けて開催した。

1. 「1000-1340年の日本文学とドイツ文学」

平安朝文学と、同時期のヨーロッパ文学との不思議な類似という問題に取り組んだものである。数学史上の難題にも比べる、比較文学にとっての難題を、グローバル史という手法を用いることにより、また、ドイツ文学の研究者と日本文学の研究者の対話により、解くことを試みた、画期的なセッションであった。

2. 「オペラを通して“アフリカ”に出会う～現代の上演の現場から」

森岡美穂教授は、いまの日本で、現代ヨーロッパのオペラの舞台に最もよく通じている人物（の少なくともひとり）であろう。講演において、森岡教授は、現代ヨーロッパのオペラにおける「アフリカ」を詳しく論じた。

3. 座談会「世界の諸地域、諸時代の文化についての学術情報」

図書館情報学を専門とする小山憲司教授は、学術情報がいかに流通するかをも研究テーマとしている。小山教授の司会による座談会「世界の諸地域、諸時代の文化についての学術情報」では、地球のさまざまな地域、さまざまな時代を研究対象とする研究者が、いかに学術情報を扱うかを披露しあったが、学術情報流通研究に比較文化的視点を取り込む、稀な試みであった。

最後に、充実したイベントを開催することができたのは、関係各位の協力によるものである。厚く御礼申し上げる。

詳細なタイムテーブルは、次ページ以降を参照

< 1 日目 >

実施日時：2021 年 12 月 18 日（土）10:02~12:13

実際のタイムテーブル：

10:02 縄田研究員挨拶

深町所長挨拶

学長あいさつ（深町所長代読）

10:05 縄田研究員による本「学術シンポジウム」によるこれまでの共同研究などの説明

10:09 第一部スタート

論集 Yuji Nawata, Hans Joachim Dethlefs (eds.) Performance Spaces and Stage Technologies: A Comparative Perspective on Theatre History (Bielefeld: transcript, 2022) 刊行予告イベント

■縄田 雄二（中央大学文学部教授）

「上演空間と舞台テクノロジー 比較演劇史の一視点」

■妹尾 達彦（中央大学文学部教授）

「中国古代都市における上演空間 9世紀長安における路上演劇を中心に」

■日置 貴之（明治大学情報コミュニケーション学部准教授）

「幕末・明治の歌舞伎における『スペクタクル』」

■井戸田 総一郎（明治大学名誉教授）

「劇場と制度 1870・80年代のベルリンの劇場風景」

■伊藤 愉（明治大学文学部講師）11:15~11:37

「レニングラード学派における上演空間、舞台上の事物」

■Kai van Eikels（Ruhr-Universität Bochum 演劇学科講師）

”Projection Technology and the Theater Stage: Light, Space, Body Politics”
（日本語通訳あり）

■質疑応答（主に縄田研究員から各参加者への問いかけとそれへの応答）

< 2 日目 >

実施日時：2021 年 12 月 19 日（日）13:00~18:10

実際のタイムテーブル：

13:00 縄田研究員挨拶

13:05 深町所長挨拶

13:07 第一部スタート

さまざまな視点

第1セッション「1000-1340年の日本文学とドイツ文学」

司会 縄田 雄二（中央大学文学部教授）

■吉野 朋美（中央大学文学部教授）

「1000-1340年の日本文学」

■寺田龍男（北海道大学メディア・コミュニケーション研究院教授）

「1000-1340年のドイツ文学」

司会者と講演者2名による講演内容に関するやり取り及び質疑応答

<14:13~14:30 休憩>

第2セッション

司会：縄田 雄二（中央大学文学部教授）

■森岡 実穂（中央大学経済学部教授）

講演「オペラを通して”アフリカ“に出会う～現代の上演の現場から」

司会者と講演者による講演内容に関するやり取り及び質疑応答

<15:36~16:00 休憩>

第3セッション

座談会「世界の諸地域、諸時代の文化についての学術情報」

【座談会参加者】

唐橋 文（中央大学文学部教授 古代メソポタミア）、

水上 雅晴（中央大学文学部教授 近世東アジア）、

鈴木 俊幸（中央大学文学部教授 近世・近代日本）、

石橋 悠人（中央大学文学部教授 近代イギリス）、

縄田 雄二（中央大学文学部教授 近現代ドイツ）

司会：小山 憲司（中央大学文学部教授）

★実際の進行内容

縄田先生 挨拶

小山先生 座談会に関する趣旨説明

唐橋先生 座談会テーマに関連した発表

水上先生 座談会テーマに関連した発表

鈴木先生 座談会テーマに関連した発表

石橋先生 座談会テーマに関連した発表

縄田先生 座談会テーマに関連した発表

司会と参加者5名による座談会

シンポジウムの総括を、チーム主査である縄田研究員が行い終了。

以 上